

# 講義（室野 愛子様）



## 1. 講師

室野 愛子様

社会医療法人同仁会 耳原総合病院 チーフアートディレクター

（所属：NPO法人アーツプロジェクト 理事 / JOHNNAN株式会社アート&デザイン課参事）

## 2. テーマ

プロジェクトを実施する上で大切にしていること、アートリンクワーカーの役割、文化的処方の実践など

## 3. 講義内容

- 「ホスピタルアート」に関わるきっかけや事例紹介

ご自身の経験により目の当たりにした「健康格差」。病院の中にアートを取り入れた「ホスピタルアート」ディレクターとして携わった耳原総合病院の事例を紹介。

- 様々な関係者と連携するときに気を付けていること

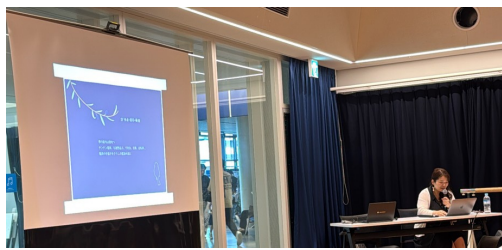
歴史を調べ、勤務スタッフの思いをくみ上げ、継承することを大切にしている。丁寧に対話を繰り返すことで、普段あまり話さないスタッフが「やりたいこと」を話してくれた。「どこへ向かうのか」のすり合わせが重要。

- 活動を行う上で大事にしていること、文化的処方の実践

ボランティアではなく、アーティストの対価を支払ってもらう。価値から逃げず、システム化、効率化される中で深い問いと向き合う。くらしの中（ケア・地域）に根付いた痛みを和らぐため活動の場を広げている。

- アートリンクワーカーの存在

アートコーディネーターだけではなく、より市民に近い立場でつながりを広げる「アートリンクワーカー」を設置。様々な場所へ出向き、琴線に触れる場面をつくり、様々な人と交流を行っている。



# ディスカッション



4回目までのグループとは違うメンバー構成で、グループディスカッションを実施。

## 1. アイスブレイク

室野様のお話を聞いて、印象に残ったことなどをグループ内で共有。

## 2. 個人ワーク〜グループディスカッション（一部抜粋）

「つどう、つながる、つたえる」の3つのつをベースに、これからやりたいことをそれぞれポストイットに書いてもらい、グループ内で共有。

<Aチーム>

- ・おにクルに通う、利用者に話を聞きたい。
- ・One Art Project、Hub-IBARAKI Art Projectの活動に関わりたい。
- ・運営側に携わりたい、携わるための学びの場がほしい。
- ・市民アートコーディネーター育成講座のような仕組みを整えたい。

<Bチーム>

- ・茨木市、財団が主催しているイベントに参加する。
- ・ホスピタルアートの見学。
- ・アクセシビリティの勉強をしたい。
- ・優しく正しく伝えられるような話し方を意識する。

<Cチーム>

- ・茨木市内のことをもっと知る。
- ・イベントに行って話しかけてみる。
- ・身近な楽器を楽しく演奏できるワークショップを実施する。
- ・その日その場に集った人で本を読む、話し合う会をやる。



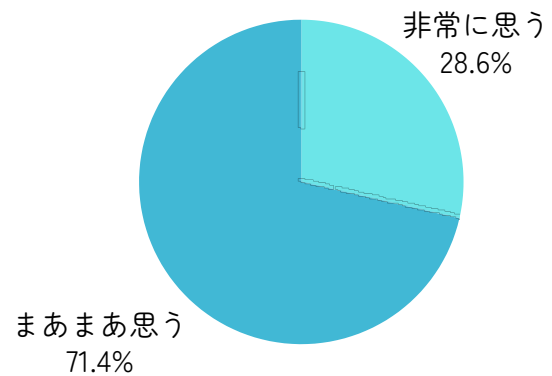
(当日の様子)

## アンケート (7名)



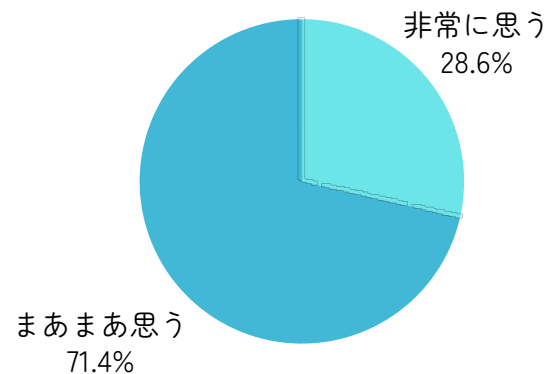
### 1. 文化芸術活動に対して、以前より「関わりたい」と思う気持ちが高まりましたか？

- 非常に思う...2名
- まあまあ思う...5名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名



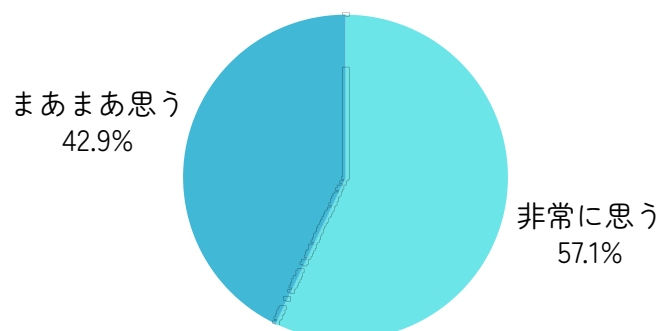
### 2. 地域社会に貢献したいという気持ちは高まりましたか？

- 非常に思う...2名
- まあまあ思う...5名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名



### 3. 今回の活動を通して、新しい出会いやつながりを感じましたか？

- 非常に思う...4名
- まあまあ思う...3名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名

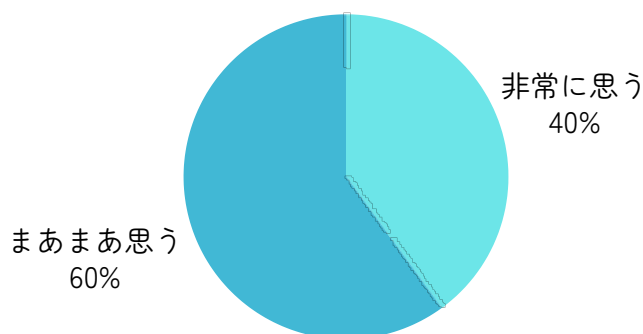


## アンケート (7名)



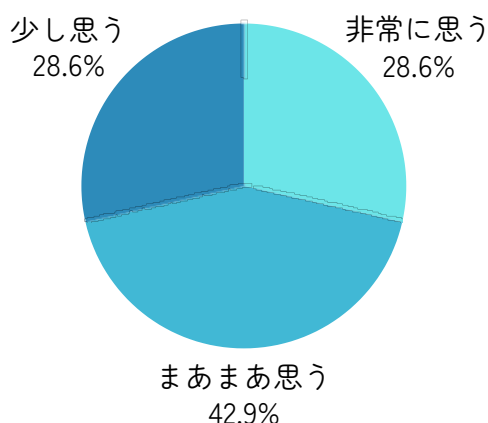
### 4. 新しいことへの好奇心や、アイデアを得ることができましたか？

- 非常に思う...3名
- まあまあ思う...4名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名



### 5. この活動について、家族や友人など周りの人に紹介したいと思いますか？

- 非常に思う...2名
- まあまあ思う...3名
- 少し思う...2名
- 特に変わらない...0名



### 6. 印象に残ったキーワード、感じたこと・運営に関するご要望などがあれば自由にご記入ください。(一部抜粋)

- ・アートは生命線、病気の上流・下流という言葉が印象に残っている。アートは嗜好品だと思っていたが、病気の予防やケアの観点からすると本当は人々にとって必要不可欠な存在なのかもしれないと気付かされた。また、アートを創るにあたって、人とつながることや対話がいかに重要なのかについても考えさせられた。医療者や患者さんと真摯に向き合うことで、地域の歴史や病院の理念、人々の思いなどに触れることができる。そうしてやっと、創るべき、あるいは創りたいアートが見えてくるのだなと感じた。
- ・室野さんの言葉『ボランティアではやらない』『価値から逃げない』『アートリンクワーカー+アートコーディネーター』『(医療だけではできない)社会全体が治る力をうながすためのアート』
- ・グループで意見共有する時間をもっとほしかった。



令和7年度茨木市主催

# つどい、つながる 文化の会議

第6回

実施報告書

令和7年11月21日

茨木市

サントリーパブリシティサービス

# 目次



1. 私たちのゴール...P.65

---

2. 実施概要...P.66

---

3. スケジュール...P.67

---

4. イントロダクション...P.68

---

5. ビジョンボードの作成および成果物...P.68

---

6. 全体発表...P.71

---

7. アンケート...P.73

---

# 私たちのゴール



## 最終ゴール

文化芸術をきっかけに、誰一人取り残さない社会をつくる。他の団体や他者と積極的につながり、つなげる役割「=市民アートコーディネーター」を担う



## 今年度のゴール

市民アートコーディネーターとして必要なスキルや関係性の築き方を学び、文化芸術×他分野の取組みを知ることで他者や他団体とつながるアイデアを考える



## 第6回のゴール

次年度に向けてどんなことができるか話し合い、ビジョンボードをつくろう

# 実施概要



## 1. 日時

令和7年11月15日（土）14:00～16:30（13:50開場）

## 2. 場所

おにクル2階 多目的室C

## 3. 参加者

参加者計18名

出席8名 欠席10名

## 4. 運営

企画運営：茨木市、SPS

オブザーバー1名：茨木市文化振興財団

# スケジュール



時間	項目	詳細	進行
13:00	会場準備	会議設営	以下SPS
13:30	打ち合わせ	茨木市、SPSで打ち合わせ	
13:50	開場		
14:00	イントロ	配布資料とゴールの説明 3グループ	
14:15	個人作業	5つの「つ」に沿ってポストイットに 行動を具体的に書き、模造紙に貼る	
14:35	共同作業	各グループ10分程度 ①書いた内容の共有 ②他の方の内容にコメント	
14:35	休憩	事務局側で模造紙を壁に貼る	
15:15	個人作業	発表に向け話す内容をまとめる	
15:30	発表&対話	全体に向け発表 ①初回から変化したこと ②身についたスキル、身につけたいスキル 時間があれば他の参加者へコメント	
16:20	講評		茨木市
16:25	クロージング	まとめ、次回の確認、アンケート	
16:30	終了&歓談	懇親会（任意参加）	全員
17:00	片付け		

# イントロダクション



## 1. 内容

今年度のゴールの再確認と、今回の目的を共有。6回を通して、やってきたことの振り返りと、市民アートコーディネーター（以下市民AC）として必要な役割、その役割を担うために習得してきたスキルについて共有。

## 2. スキル一覧

### つどう

- ・幅広く情報を収集する
- ・関わり方を考える
- ・継続して関わる
- ・心地よい関係性を意識する
- ・Slackなどを活用して情報を共有する
- ・モチベーションを維持する

### つながる

- ・好奇心をもって聞き出す
- ・価値観や過程を理解、共感する
- ・「問い」という名の仮説を立てる
- ・相手を尊重しながら意見を交換する
- ・接点、共通点を見つける
- ・新たな気づきや発見を得る

### つたえる

- ・関わる人を思いやる
- ・事実を把握、確認する
- ・効果的な発信手法を意識する
- ・情報を整理して共有する
- ・伝えたいメッセージを整理する
- ・わかりやすい文章構成で伝える

# ビジョンボードの作成

## 1. 振り返りと個人作業

『興味関心の源＝土』『身につけたスキル＝葉』に見立て、スキルをどう活かしたいかを考えながら、『今後市民ACとしてやりたいこと＝花』を5W1Hを意識して具体的に記入。「つどう、つながる、つたえる」の役割ごとに分かれている模造紙（ビジョンボード）の上に、『花』を貼る作業を実施。

## 2. ディスカッションと共同作業

グループごとに自分の書いた紙を共有する。他の参加者は、提供できるような情報を持っている、あるいは何かコメントしたいことがあれば、コメントを書いて付け足していく作業を実施。



（当日投影資料および作業の様子）